

1.業績(A)

(1) 学術的論文

- * 「地域文化とネットワーク」『21世紀の地域文化の担い手研究会』総括記録(財団法人サントリー文化財団テーマ研究助成)(2001年1月)

1997年8月から2年余にわたるフィールドワークと、ゲストスピーカーとの対話は極めて有効であった。各地域の現場の方々とのトークは、得るものが多く印象的であった。

(2) 学術的報告

- * マルチメディア・エンカルタ研究会(苅谷剛彦、佐藤健二、武田徹らレギュラー)にて、「オーラルヒストリーの課題と方法」と題して報告(2000年5月12日)
- * C.O.E.オーラル・政策研究プロジェクト主催の研究集会「オーラルヒストリーの課題と実践 - 過去と未来との対話 - 」にて、「同時進行オーラルの危険と魅力 - 阪神・淡路震災復興委員会の資料を基に - 」と題して報告、そして読売新聞記者西井淳、東京海上研究所理事長下河辺淳の両氏とディスカッション(2000年11月4日)

この報告の速記録は、本プロジェクト編『オーラルヒストリーの課題と実践 - 過去と未来との対話 - 』(2001年5月)にまとめられた。

(3) 学会企画

- * 日本政治学会2000年度研究会(名古屋大学法学部、10月7日-8日)の企画委員長として、共通論題及び分科会の全ての企画の立案・実施そして今回初めて自己評価を行った。企画の狙いについては『日本政治学会会報』(2000年6月、No.39)の「21世紀の政治学へむけて - 2000年度研究会企画の概要 - 」と題する拙文に詳しい。

(4) C.O.E.オーラル・政策研究プロジェクト研究リーダー、政策情報プロジェクト研究主任

- * 5年間にわたるC.O.E.プロジェクトの初年度として、今年度はプロジェクトの立ち上げ(サポートスタッフ、アルバイトの採用と組織化)に膨大な時間と労力を費やした。2000年6月から8月にかけて漸く陣容が整ったものの、試行錯誤の繰り返しの1年間であった。政策情報プロジェクトの事務の多くもこちらに移された。
- * オーラルの実施状況は別記活動報告参照。但し、インタビュアーとして参加したオーラルは下記の通り。
本野盛幸、柳谷謙介、松永信雄、竹内道雄、園部逸夫、堤清二、画商F
- * 研究集会『オーラルヒストリーの課題と実践 - 過去と未来との対話 - 』を、サンケイプラザにて11月4日に開催。報告と討論は全て本プロジェクト刊行の速記録『オーラルヒストリーの課題と実践 - 過去と未来との対話 - 』(2001年5月)に収録。
- * ニュースレター『POPEニュース』を2000年10月と2001年3月に刊行。
- * オーラルの成果物として、本プロジェクト刊行の出版物を下記の様に刊行(2001年2月)。
『海原治オーラルヒストリー』(上・下)
『田川誠一オーラルヒストリー』(上・下)
- * オーラルの成果物として、商業出版されたものは以下の通り。
『政治とは何か 竹下登回顧録』(講談社、2001年1月)
なお、本書については、『読売新聞』『朝日新聞』『日経ビジネス』等に書評が出た。

2. 業績(B)

(1) 書評

- * 「味読・愛読・文学界図書室」『文学界』に隔月下旬書評連載
 - ・猪木正道『私の二十世紀 - 猪木正道回顧録』(5月号)
 - ・ドウス昌代『イサム・ノグチ』上・下(7月号)
 - ・佐藤俊樹『不平等社会日本』(9月号)
 - ・小森陽一『日本語の近代』(11月号)
 - ・原武史『大正天皇』(1月号)
- なお、上記佐藤俊樹への書評は、「中央公論」編集部編『論争・中流崩壊』(中公新書ラクレ、2001年3月)に、中流論争の一環として再録。

(2) 解説

- * 「日本の近代と新聞」「検証・新聞とはいかなるメディアなのか」と題する座談会における報告。他の参加者4名の報告と討議とを合わせ『アステイオン』54号(2000年11月、TBSブリタニカ)の特集に収録。
- * “Looking Back, Looking Forward - Japan at the Turn of the Twenty-First Century”『Look Japan』(2000年12月号)。山崎正和、五百旗頭真、船橋晴雄3氏との共同解説。

3. 教育

(1) 公共政策プログラム・ディレクター

- * 故佐藤誠三郎副学長の遺志を出来る限り反映させる形で、松谷明彦、飯尾潤、大田弘子、岩間陽子の四人の先生方の献身的な尽力のもと、GRIPS初年度の講義プログラムの設計を行い、実施に移した。
基幹科目と構造分析科目(いずれも必修)をコアに、政策課題科目(選択必修)及び基礎科目を配し、更に公共政策コロキウムという現場を知る外部講師とのディスカッションを行うという公共政策プログラムとしての一貫した“体系性”に、本年度の特色があった。

(2) 基幹科目 政策研究の基礎

- * 春大学期・秋大学期の毎週木曜午後に3時間にわたって開かれ、上述の四人の先生と私との連携の下、公共政策研究のための基礎をなす必須テーマごとにディスカッションを主体にすすめた。そのため、参加者全員(9名)が事前に必読文献を読破し、授業開始前(木曜正午)に、論点をまとめたディスカッション・ペーパーを提出することが義務付けられた。毎回全員が報告し、共同討議を行った。
政策研究の知的ブラッシングを目的とする科目として、ペーパーの質も、言葉のラリーも、春大学期3ヶ月の間に格段の進歩を見た。相互にペーパーの交換を行ったことも、良い刺激になったことと思う。
更に、1年間の勉強の成果をそれぞれの視点で発表した“Policy Paper”は、各人の到達点を示して有意義であった。
- * 公共政策プログラム初年度であることに鑑みて、本年度は積極的に広報活動を行い、在学生諸君の協力も得た。
 - ・「議論する『政策力』の育成へ」<寄稿>『毎日新聞』(7月18日夕刊)
 - ・「政策研究大学院大学・授業ルポ」<天日隆彦記者>『読売新聞』(7月31日夕刊)
 - ・「政策研究大学院大学の試み」<川瀬弘至記者>『産経新聞』(10月27日夕刊)
 - ・「『自分の言葉』で『官』を変える-新世代の胎動」<清野真智子>『MOKU』3月号

4. 管理・運営への関与

(1) 政策研究大学院大学の管理・運営への関与

- * 常任委員会委員
- * 常任委員会人事評価調査会委員
- * 常任委員会教育課程委員会委員
- * キャンパス検討委員会委員
- * ランチタイムトーク幹事

(2) 埼玉大学大学院政策科学研究科の管理・運営への関与

- * 日本語合同プログラム委員会委員長

5. 社会的貢献 (A)

(1) 他大学・研究所等

- * 国際日本文化研究センター客員教授 (危機管理と予防外交)
- * 通商産業研究所特別研究官
- * 国立公文書館「専門職員養成課程」講師 (9月29日、「オーラルヒストリーへの招待」)
- * 通産省経済理論研修「政策決定ケース」講師 (10月13日、「APEC」)
- * 人事院課長補佐研修講師 (1月16日、25日、「オーラル・政策」)
- * 衆議院事務局初任者研修講師 (3月22日、公開講演会を兼ねる)
- * 東京都立大学大学院社会科学部政治学専攻「博士論文」審査委員 (9月 - 3月)

(2) 財団法人等

- * (財) 社会経済生産性本部経営アカデミー コーディネーター
- * (財) サントリー文化財団サントリー学芸賞「思想・歴史部門」選考委員
- * 毎日新聞社 毎日出版文化賞選考委員
- * 毎日新聞社 社史 (130年史) 編集委員会アドバイザー
- * (財) 東京市政調査会 評議員
- * 博報堂岡崎研究所「近代外交史研究会」座長

(3) 学会等

- * 日本政治学会理事・2000年度企画委員長・I P S A 検討委員会委員
- * 日本国際政治学会評議員

(4) 審議会等

- * 東京都江戸東京博物館野外収蔵委員会委員 (東京都生活文化局)
- * 「栄典制度の在り方を考える」懇談会委員 (内閣官房)
- * 防衛政策懇談会委員 (防衛庁広報課)

(5) インター・ユニバーシティ・セミナー

- * 御厨塾・日本政治史プロフェッショナルセミナー

月2回、18:00 - 22:00、セミナー形式で日本政治史の原典を読む会の2年目。レギュラーゼミでは、『佐藤栄作日記』を周辺資料と共に徹底的に精読。夏合宿では『遠い崖 - アーネスト・サトウ日記抄』(既刊9巻)を手分けして速読。

参加メンバーも、東大、都立大、九大、京大と出身大学が多様化し、いよいよインター・ユニバーシティの面白さと、ポス・ドク・セミナー的な質の高さが感じられる様になった。参加者9名。

6. 社会的貢献(B)

(1) 新聞メディア

- * 「ゆとりなき首相の悲劇」『毎日新聞』(4月6日夕刊)
- * 「検証 石原都政一年」上<コメント>『朝日新聞』(4月20日)
- * 「石原都知事の1年 私はこう見る」<談話>『産経新聞』(4月22日)
- * 「『神の国』発言」<コメント>『毎日新聞』(5月17日)
- * 「今度の解散何と呼ぶ?」<談話>『読売新聞』(5月19日)
- * 「『コトの終わり』の美学」『読売新聞』(6月20日)
- * 「湿っぽい痛み分けの総選挙」『共同通信』配信(6月)
- * 「どうする自民党 第2部」5<コメント>『読売新聞』(8月20日)
- * 「ただいま執筆中」<記事>『共同通信』配信(9月)
- * 「民主党刷新計画」3<コメント>『読売新聞』(9月14日)
- * 「書評・黙殺(上・下)」『日本経済新聞』(9月17日)
- * 「民主党刷新計画」7<コメント>『読売新聞』(9月21日)
- * 「政治のプリズム - 宗教を通して」<8回連載>『読売新聞』(夕刊文化面、9/25、9/26、9/27、9/28、10/2、10/3、10/4、10/5)
- * 「都政の50年と21世紀の課題」<座談会・司会>『都政新報』(10月20日)
- * 「都政新報社50周年記念懸賞論文審査結果」<審査委員コメント>『都政新報』(同)
- * 「国会図書館の文献CD出版」<コメント>『朝日新聞』(12月17日)
- * 「田中知事押し戻された『脱ダム宣言』」<コメント>『産経新聞』(3月21日)

(2) 雑誌メディア

- * 「岡崎久彦の外交人物伝 - どういう日本を作ろうとしたのか」<連載・座談会>『MOKU』(4,5,6,7,8,9,10,12,2月号)
- * 「政治四季報」<連載・対談>『論座』(11月号、2月号)[対談相手 松原隆一郎]
- * 「日本と戦争するためには『卑怯な日本人』が必要だった」<対談>『SAPIO』(12月20日号)[対談相手 田原総一郎]
- * 「検証『石原慎太郎都知事の500日』」<コメント>『週刊宝石』(10月19日号)
- * 「『ポスト森』日本の100人が選んだ総理にしてはいけない10人」<コメント>『週刊宝石』(11月23日号)

(3) 電波メディア

- * テレビ朝日「100年の夢にかけた男たち」<ゲスト>(12月31日 10:00 - 11:25AM 放映)。司会者鳥越俊太郎とのやりとりが面白かった。

(4) その他

- * 「ある肖像」『私たちが生きた20世紀』下(文春文庫、2000年10月)『文芸春秋』(2月臨時増刊号)の文庫化
- * 田原総一郎『日本の戦争』<コメント>(小学館、2000年11月)
- * 「交遊抄 直球派のテレ友」『日本経済新聞』(12月25日)
- * 「知識の活性化が人材を育てる」『MOKU』(2000年1月号)